

・基準ごとの自己評価

基準 1 . 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

1 - 1 . 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。

《1 - 1の視点》

1 - 1 - 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されているか。

(1) 1 - 1の事実の説明(現状)

1 - 1 -

- ・本学の建学の精神は『不言実行、あてになる人間』であり、前述のとおり、昭和 13(1938)年の本法人創立時から受け継がれてきた本学の支柱である。
また、基本理念として、「『不言実行、あてになる人間』を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた信頼される人間を育成するとともに、優れた研究成果をあげ、保有する知的・物的資源を広く提供することにより、社会の発展に貢献する。」ことを掲げている。
- ・学生に対しては、「学生便覧」の冒頭に、建学の精神と基本理念を掲げ、周知徹底を図るとともに、本学の HP(ホームページ)では、この建学の精神とともに本法人の創立者三浦幸平がこの建学の精神に至った経緯について述べている。また、本学独自の教養教育科目である「総合科目」において、毎年、初年次生に対し、理事長、総長、学長等が建学の精神とそれをもとにした本学教育について講述している。平成 19(2007)年度からは、入学時にクリアファイルに建学の精神と基本理念、各学部の特徴を印刷して学生に配布し、一層の周知を図っている。
また、各学部・学科では、新入生を対象として本学の恵那キャンパスで行う合宿オリエンテーション「恵那オリ」を皮切りに、履修ガイダンス、ゼミ等で、建学の精神と基本理念、それを基にした学部・学科の教育目的と教育内容等について詳しく説明している。
- ・建学の精神及び基本理念は、本学の主要な建物の壁に掲示され、日常のキャンパス生活の中で自然に学生、教職員、訪問者に伝わるようにしている。
- ・教員に対しては、毎学期の冒頭で開催される教員総会において、建学の精神、基本理念を軸に、その年に取り組むべき教育・研究課題、組織改革等について、学長等から教員と幹部職員に「運営方針」として述べられる。印刷物での周知は、学園の 40 年史、50 年史、60 年史を始め、随時刊行される学園の最重要雑誌「結晶」、毎年初め教員に配布される「教員手引書」、学生用では「学生便覧」及びその他の刊行物で行っている。

(2) 1 - 1の自己評価

- ・建学の精神は法人創立から今日まで不変であり、長年、上記のいろいろな媒体を通して学内外に周知しているので、学生及び教職員、学外への周知度は非常に高い。
- ・総合大学としての基本理念は、改定後まだあまり時間が経過していないが、大学の HP、「クリアファイル」、「学生便覧」等で周知に努めているので、周知度は急速にあがっている。

中部大学

(3) 1 - 1の改善・向上策(将来計画)

- ・建学の精神の学内外への周知については、現在までの周知方法を続けることで十分であると判断している。
- ・基本理念の学内外の周知については、現在までの周知方法を続けるとともに、それ以外にも可能な限り多くの機会を利用して、周知度をあげる努力をしていく。

1 - 2 . 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

《1 - 2の視点》

- 1 - 2 - 建学の精神・大学の基本理念を踏まえた、大学の使命目的が明確に定められているか。
- 1 - 2 - 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。
- 1 - 2 - 大学の使命・目的が学外に公表されているか。

(1) 1 - 2の事実の説明(現状)

1 - 2 -

- ・「建学の精神」と「基本理念」に沿い、その果たすべき使命を、教育・研究・社会的貢献の観点から以下のように設定している。

教育上の使命 - 豊かな教養とともに自立心と公益心をもち、広く国際的視野から物事を考え、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を世に送り出す。

研究上の使命 - 社会の発展に寄与する研究課題に取り組み、優れた研究成果をあげることによって、真理の探究と知の創造に貢献する。

社会貢献上の使命 - さまざまな社会的活動に参画し、大学が保有する知的・物的資源を活用することによって、地域を中心とする社会の福利向上と発展に貢献する。

- ・また、「教育上の使命」に沿い、学部教育の目的と大学院教育の目的を、それぞれ以下のように定めている。

学部教育の目的 - 本学の教育上の使命に沿い、それぞれの専門分野の基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、そして自ら学び続ける能力を身につけた、専門職業人/有識社会人となる人間を世に送り出す。

大学院教育の目的 - 本学の教育上の使命に沿い、それぞれの学術領域における高度の学識・技術/方法と、それらを実社会で効果的に活用し一層発展させる創意・工夫能力を身につけ、指導的な専門職業人/有識社会人および教育者、研究者となる人間を世に送り出す。

- ・上記の教育上の使命、教育目的を達成するための取り組みの例として、工学部の「創成科目」、人文学部の「短期留学制度」等がある。

1 - 2 -

- ・大学の使命・目的は、建学の精神及び基本理念の場合と同じ媒体(「HP」、「学生便覧」、

「教員手引書」等)と、「学生オリエンテーション」や「教員総会」等をとおして、学生及び教職員に周知している。

1 - 2 -

- ・ 本学の使命・教育目的は、HP をとおして、学外に公表している。また、さまざまな場における理事長や学長の発言をとおして、同窓会や大学支援組織に紹介している。

(2) 1 - 2 の自己評価

- ・ 本学の使命・目的は、建学の精神及び基本理念を踏まえ、全学の総意のもとに明確に定められたものであり、本学の諸活動や改革はこの使命・目的に沿って進められつつある。
- ・ 本学の使命・目的は、建学の精神及び基本理念の場合と同じ媒体等をとおして学生、教職員及び学外に周知している。ただ、改定後あまり時間が経過していないので、現時点の周知度はまだ十分に高いとはいえない状況にあると判断している。

(3) 1 - 2 の改善・向上方策 (将来計画)

- ・ 大学の使命・目的については、現在の周知方法を継続的に行うと同時に、常に使命・目的を踏まえて教育研究活動の改善を進めるようにリードすることによって、周知度を更にあげる努力を重ねていく。

[基準 1 の自己評価]

- ・ 建学の精神は法人創立以来今日まで不変であり、現在までに多くの方法によって学内外に十分周知している。基本理念も、同様の方法で、学内外に周知している。
- ・ 大学の使命・目的は建学の精神及び基本理念に沿って明確に定められており、HP をはじめいろいろな媒体をとおして学内外に周知しているので、周知度は急速にあがっていると思われる。

[基準 1 の改善・向上方策 (将来計画)]

- ・ 建学の精神の学内外への周知については、現在本学が行っている方法を維持することで十分であると判断している。
- ・ 基本理念、使命・目的を学内外に更に周知するために、現在の種々の周知方法を継続的に行っていくとともに、実際の教育研究活動を改革・改善していくなかで、周知度をあげる努力を重ねていく。